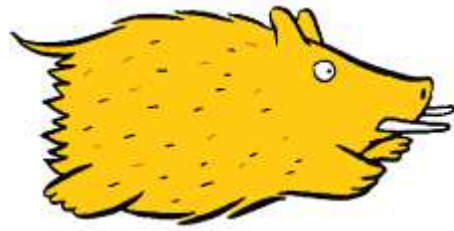




トマンズ隊じゃないから



親艦式その2夏島編 by うさお

平成24年10月14日に自衛隊の観艦式に行ってきました。今回も社長から貰った招待券。2年前にももらった時には、うさおは行けずCaccoが代わりに行き、うさおは見てきたような嘘をつきまくっていました。でも、今度は10月11日の券を2枚も貰いました。二人で行けます。

ただし、横須賀港集合6時なので、4時には家を出なくてはならず、とても大変そうです。時間通りに集合場所に行けるか、とても心配です。



すっかり間違えて来ちゃった横浜港

でも嬉しくて、自然と頬が綻ぶ、Caccoの姪のグリコ隊長が同じく応募して8人分の券を手に入れました。だが、戦争遺跡マニアのメンバーの中の埼玉にお住まいのご夫婦(旦那さんが戦争遺跡、奥さんが廃墟遺跡のマニアだ)が、どうしても土日に休みが取れないので、何とか私たちの11日の券と交換して欲しいとのこと。私たちも、平日休まなくても良いし、集合場所が横浜港だし、グリコ隊長の仲間と一緒にだし、願ったり叶ったりということで、券を交換しました。

ご夫婦は横浜の実家に前泊し、いそいそと出かけられたとか。11日のイベントなので、私たちの14日より早く見てきたので、グリコ隊長には大変感動したとか、お礼の電話があったようだ。

私達が行く14日は最高司令官である野田



総理も来られるとかで、まさにこの日が観艦式の本番なのだ。何だか、藁しべ長者みたいに、物事が良い方に転がっている。当日は早めに家を出て、関内駅へ。悠然と馬車道の景色を眺めながらお散歩。余裕のよっちゃんでした。



グリコ隊長とパパ



ばたいて飛んでいく。

タクシーを捕まえて、新港に急ぐ。その間にCaccoがグリコ隊長にメールをすると、もう新港に着いているとのこと。

前回、Caccoが大栈橋から乗ったもので、すっかり大栈橋だと思い込んでいた。

当日はグリコ隊長と、その彼氏、彼氏の従兄弟、会社の同僚、グリコ隊長のお父さん(彼氏がいるので少し微妙)のメンバーで、取り

敢えず艦内で陣取った後に会うことになりました。グリコパパは後部甲板の後方に席を取り、私たちは演習が良く見えるということで後部甲板左舷に陣取った。

おお、海猿でお馴染み、潜水夫



大栈橋に着くと、おおっ、いるいる、戦艦が・・・
へり空母っぽい戦艦が・・・あれっ？空母艦？
潜水艦救難艦「ちはや」だったような？

まあ、こんなもんなんなのかな、戦艦だし・・・。

兎も角も一時間前についているから精神的にもゆとりだ。手荷物検査(尖閣諸島とか、竹島とか世情が沸いていた時期でもあり)も無事済み、さて乗り込む段になって担当自衛官が首を傾げた。

上官を呼んでいる。何事！！

「申し訳ありませんが、この券は新港埠頭から出る艦のものです、艦が違います。なあに、歩いても15分位で着きますよ」えっ、今までの精神的ゆとりが吹っ飛んだ。

新港埠頭は赤レンガ倉庫の裏を回って行くので、近いようでもかなり遠い。到底私たちのような老夫婦の足では30分以上は掛かる。早くたどり着いて、艦内で配ってくれる毛布を確保する計画が羽

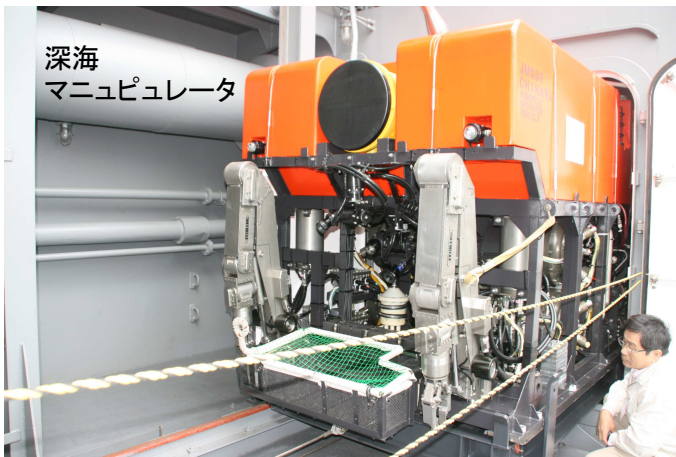
いきなりのファッションショー



まさかのバイオハザード？



しかし、出遅れたこともあり最前列は確保できなかつたし、毛布はもらえなかつた。甲板上はもはや難民状態。



軽装です。大丈夫かと危ぶんでいる間に、空が見る見る暗くなってきて、小粒の雨が降ってき

前列は老人2人と若者1人、手には30万から60万はする一眼レフ・デジタルカメラとほぼそれと同額と推定される望遠レンズを持ち、年齢の差を超えて、シャッターチャンス場所、演習時間の相談に余念がない。どうも見ても、彼らの対話の雰囲気では、見ず知らずのようだけど、マニアは語り合えるんだね。

艦は定刻より、10分早く出航。気分は高鳴りますねえ。CaccoはS君のプロモの撮影が行われた、第2海堡が気になるようで、探していましたがグリコ隊長のお友達がGPS携帯で「今、浦賀水道を出るところです」と教えてくれました。海の上でも使えるスマホ、便利です。

第2海堡はともかく、甲板では艦乗員のファッションショーが行われました。儀礼用の白の制服は男女ともよく映えて、DJ役の曹長(?)が連呼していたように、眩しいくらいでした。特に女性自衛官は凛々しく颯爽と見えました。

特に本艦は潜水艦救難艦なので、潜水専門の艦乗員がおりました。グリコ隊長の彼氏は特に興味を持っていたようです。

そういえばグリコパパは、甲板の後部に陣取っておりましたが、折角取った陣地を手放したくない(どこが一番よく見える位置かは誰にも判りません)のか、こちらには合流しませんでした。グリコ隊長の彼氏たちは私たちの隣に席を確保していました。私たちは寒さ対策をしていますが、彼らは





ますと、彼らは寒さがたがた震えだし、温かい船室、食堂の見学に行きました。

やはりグリコ隊長のように十分な装備で挑まなくては。とはいえ、顔に掛ってくる雨はレインコートを着ていても鬱陶しいもの。前列の家族連れやマニアのおじさんたちの、情報通の話も何となく耳について煩わしい。

私達もGPS携帯のお友達に番をしてもらって、艦内見学に行きました。

食堂：ここには記念のグッズがありましたので、チケットをくださった社長へのお土産を買いました。

圧気室：救助した潜水艦員を普通の生活に戻すための部屋です。

艦橋：ここはこの艦の司令塔、ここからみると艦には武器が積んでいないように見えるが？

深海救助艇：かわいいです。白いアザラシ君のような体をしています。しかし、この潜水艇が救助艦の要です。

補修工場：救助艇などのメンテナンスを行う所で、大規模な工場設備がすべて揃っています。「ちはや」403の中核部です。

この艦内の階段は狭く、うさおの太った体は至る所で引っかかります。この艦内で生活するのは無理だな。」

ここまではいっこく堂のように、文と写真が遅れて貼るといふ、すっごく高等テクのご紹介でした。

さて、いよいよお待ちかねの演習だ。途中、野田総理の乗った艦隊との「艦艇受閲」があったんだけど、インパクトに欠けていたのでパス。

この艦は護衛艦「やまゆき」。毎度のことだけど、この艦にも沢山の見物客が載っており、ひと揺れしたら落ちちゃいそう。

海の上って意外に声なんかが、よく届くけどもあまり聞こえなかった。それよりもこちらの艦内の声の方が聞こえてく





る。家族を呼んでいるおばちゃんの声とか、「ほら、折角、この場所取ったんだから！」。

さて、護衛艦「しらね」による祝砲発射。先に閃光と白煙が見える。その後、発射音が花火を見るように遅れて聞こえてくるのだが、更に水中を伝わってくる衝撃が艦を揺るがす。余談だが空気中の音は、340m/secの音速だが、水中の場合1500m/secと3倍もの速さになるのだ。

この艦にも、ご覧の通り満載の人人人だが、目の前の砲撃は迫力満点であったろう。

続いては、戦術運動（艦隊が移動するだけなので訳の判らん内に終わってしまった）と潜水艦の浮上だ。



悔しいことに潜水艦の浮上する位置が遙か前方なのだ。我々の前方を走行しているのが護衛艦「ひゅうが」であるが、朝、間違えたまま艦乗していたら、このイベントがハッキリ、クッキリ、バッチリ見えたはずだ。残念だなあ。Caccoは以前に一度見ているので、余裕な素振りだ。



次がヘリコプターの発艦なのであるが、これも遠くてなんだか良く判らない。護衛艦「いせ」は護衛艦「ひゅうが」と同型のヘリ空母で自衛隊の中では大型艦であるが、史上最大の空母「大和」が70000t近い排水量に対して、13000tと1/6程度で、やはり戦闘機を乗せるにはこれでも、まだまだ小さいと言うことなのだろう。

目の前の護衛艦「ひゅうが」なら、迫力抜群だったろうな。

洋上補給は補給艦「ましゅう」が僚艦に戦闘中の洋上で給油するものだ。排水量25000tというのは、海上自衛隊の中にあつて過去最大の艦だと言われているが、地味で良く判らない。

それに引き替えこのLCAC艇（ホバークラフト）は、圧倒的な速さを見せつける。それに海上で360度ターンや直角走行など、普通の船舶では及びもつかない走りを見せてくれる。が、他の艦と比べるとちゃちい感じは否めない。





この艦はミサイル艇「くまたか」であるが、比較的小型の艦である。意外に対戦装備はプアーでこれで大丈夫という感じ。

まあ、「クマタカ」と言えば、生態系の中で王者に君臨する存在であるので、名前通り実は貴重で防御に重要な艇なのかもしれない。

イスラエルのアンチ・ミサイル（アロー4）が Gaza からのミサイル攻撃を迎撃している画像を見ると、1/3は撃墜しているとのことなので、今後の緊迫した社会情勢から期待感満載である。



腹に響く爆発音、対潜爆弾の投下である。対潜哨戒機P-3Cからのもので、現在だと対潜ミサイルや誘導魚雷の方が主流のようだが、こうやって海面に水柱が立つとそれはそれでおっかない。

拳銃で襲われるより、日本刀で襲われる方が怖いのも同じで、予測できる方が精神的にダメージを与えるね。映画にあったけれども水中機雷がある深さで爆発する時に、潜水艦の乗組員は一様に恐怖を顔に浮かべている。あれだな。



これも対潜哨戒機P-3Cから発射されたIRフレア。赤外線追尾ミサイルに偽の情報を与え、ミサイルを誤誘導させるものだ。光の波長もケロシン（ジェット機の燃料）に似せてあるので、つい追っちゃうんだね。P-3Cは4発のターボプロップ機で逃げ足が遅いから特にこれが必要なんだね。

ファントムなどの戦闘機は、レーダーにロックオンされた時には、似たような機能のチャフが使われている。



同様なものにIRデコイの発射があり、ミサイル艇「しらたか」と「くまたか」から発射された。このIRデコイは、しばらくは洋上に浮かんでおり、船が行き過ぎてもその場に留まっているので、そこにミサイルが突っ込んでくるって勘定だ。

本当に最近の戦闘は電子戦なので、コンピュータの性能によるところが大きいけど、人間の



咄嗟の判断が使えないのが難点だ。

最後は救難飛行艇の洋上でのタッチアンドゴーだ。これはものすごく飛行技術が要るものらしく、3mの大波での時でも着水できると言われている。

着陸（海の上でも？）よりも離陸が難しそうだが、難なくこなしていた。日本の自衛隊って結構凄いなじゃないの、あとは実戦だけだねって、石原元都知事みたいな発言をしちゃった。

最後は観閲艦「くらま」から、野田総理のメッセージを各艦に流していた。「・・・しようじゃありませんか。」と言うフレーズは流石に無かったと思う。

この護衛艦「くらま」は、前回の観艦式から佐世保に帰る途中、韓国籍のコンテナ船と衝突し、船体に穴を開けられた。相手の損傷は「くらま」より少なかった。

やはり、8mmの鋼板とコンテナ船の50mmの鋼板では、勝負にならないね。最近の軍艦は機動性と電子機器とミサイルの勝負なので、このような戦艦が民間船に負けるような吃驚することが起きるんですね。

帰りにまた、第二海堡の脇を通ったので、その工事の進捗状況を見てみました。

大分、進んでいるようで今度は海岸周りの修復に入っているようです。これが完成すると、島に売店が出来て公園なんかも出来ちゃうのかも知れないな。

島影から判断すると、S君のプロモ・ビデオに使った監視所？機銃台座？の塔状のものが残っています。

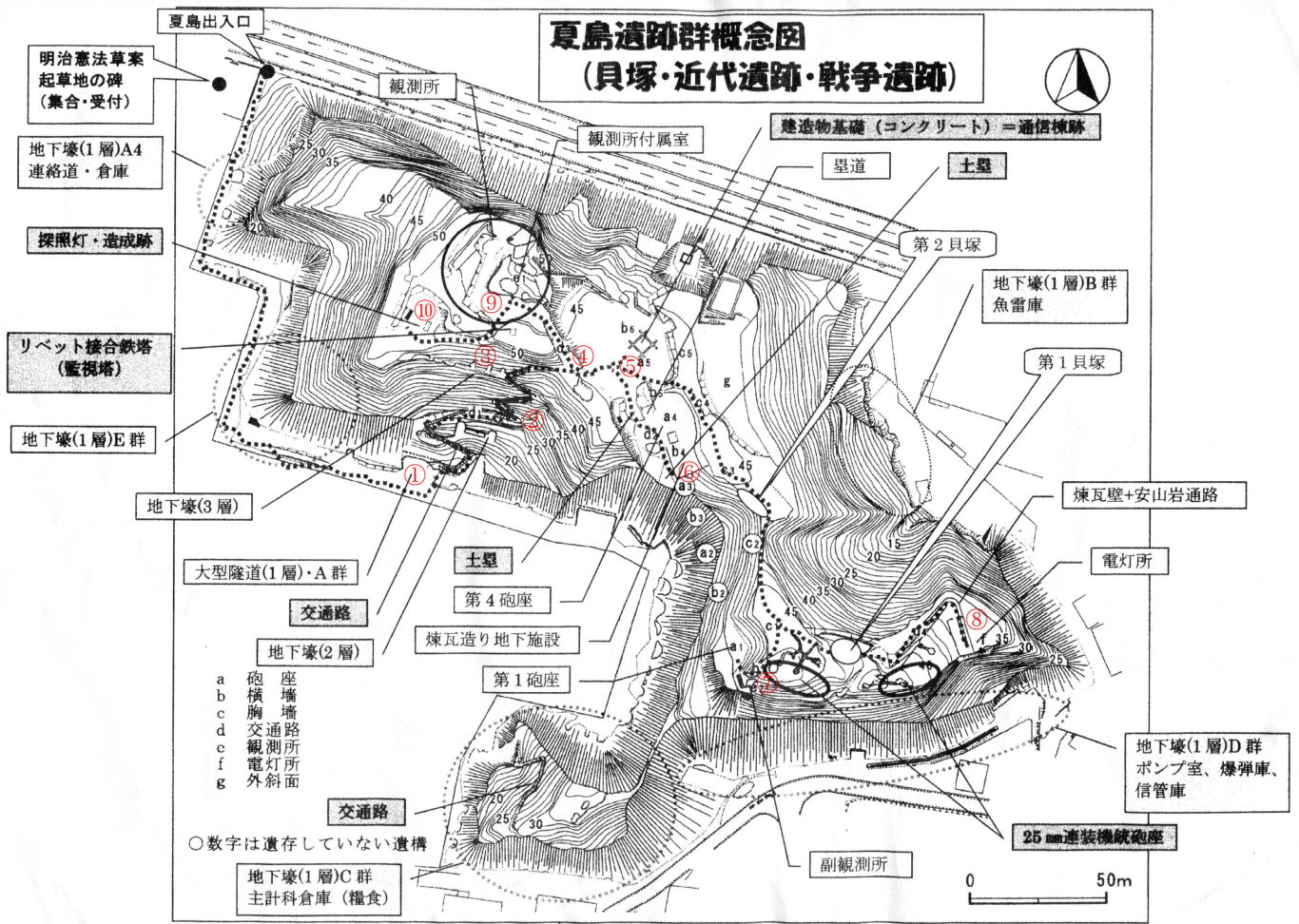
朝早くから始まった観艦式も、帰ってくると、もう六時近く、みんな元気そうに見えますがバテバテです。

楽しかったのか苦しかったのか、とにかく寒い一日だった。（うさおは体に脂身を蓄えているからあざらし君と同様に寒さなんかは感じないのです。）彼らも元気に帰って行きました。



観閲艦「くらま」







観艦式では大変疲れましたが、それにもめげず次の週には念願の夏島に行ってきました。

夏島や ああ、夏島や 夏島や。失礼いたしました。古典的なギャグをかませてしまいました。

さて、メンバーは私たちとグリコ隊長です。体力の無い私たちは、観艦式の時は疲れて、足が繻れる、腰は痛い、ふくらはぎパンパンでした。

夏島は追浜の日産自動車の工場の中にありまして、高々標高 50m 位の山ですけど、ああ、登っただけで氣息奄々、死ぬかと思いました。グリコ隊長もね。

う〜ん、メタボ体重を減らさなくっちゃなあ。追浜駅でボランティアの方と合流しました。私達はの方が先達になってくれました。

この相原さんが、また元気なんだわ、後をついていくのに大汗をかきました。

いつもの通り、貝山まではバスで行きます。こっちですよ〜相原さんは元気、私たちは夏島に着くまでにもう息が切れている。

途中にあった碑文は、「烏帽子巖の碑」。此処が昔、海だった時に烏帽子岩があったってもんです。



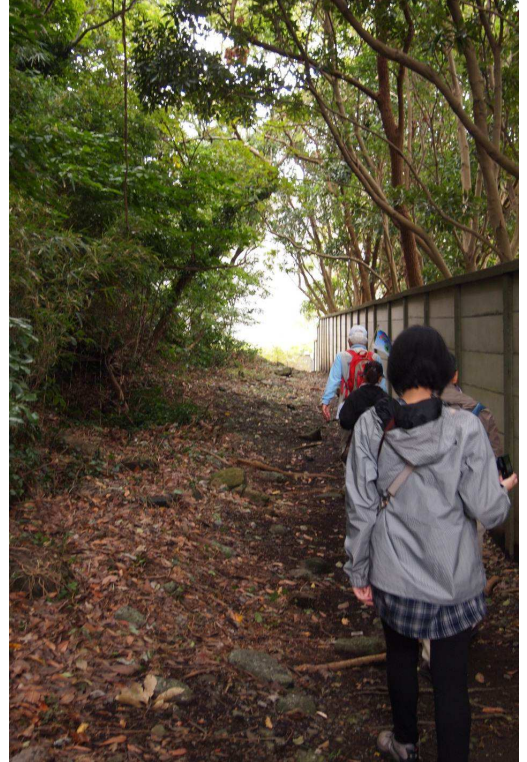
ふ〜ん、湘南か？ここは！

周囲 200m、標高 15m の岩と言おうか、島と言おうか微妙なもので、海軍の飛行場建設時に消滅したとか。



しかもここから更に 150m も離れた場所だってことで、ここに碑を作る意味が無いじゃないか。

早速、夏島に入り込みます。すぐに埋め立てられた防空壕が現われました。なんで潰しちゃうんだよ〜、危険でも良いから入らせてください。



①このコンクリートで埋められたものは、掩体壕です。あの、飛行機を隠すやつね。(丸番は地図の位置を示す)

この先に一般人の入れない処に、もっと大きな掩体壕らしきものがあるのだとか。入りたいじゃん。

相原さんは入ったことがありそうな口ぶりだった、うさおもこのボランティアさんになりたいなあ。

これが登る前の私達、皆さんの顔に不安がよぎる。以前に野島公園の山(大きな掩体壕があった処ね)に登った時も、心臓がバクバクして寒い時期だったけど、汗はだらだら出るは、頭に血は昇るは、足は上がらないわと言う、死ぬような思い出が湧きあがってくる。



こうして見ると、相原さんってお歳の割に背が高く、がっちりしている。

ところで、初っ端からこの階段を登って行くんだって、気が萎えるなあ、うさおじゃ無理なんじゃね！

案の定、この中段に辿り着いたときには、高血圧のうさおは死にそうでした。あれ、Cacco とグリコ隊長もぜいぜいしています。ふふん、鍛えてないねえ……。



②途中で島の反対に通じると思われる地下壕が出てきました。先ほどの地平のところにあるのが第1層で、ここが第2層目です。

私達、元気そうに見えますが、実は倒れそうです。この先もう一段登らなければならないのですが、とっても自信がありません。



③ここにも防空壕があるんですよと相原さん。このあたりは山の頂上付近だし、坂道も傾斜が楽になっているので、ひ弱なうさおも大丈夫。

防空壕は、大人が屈んで入れるくらいの大きさで、中は広いのかもしれないが、うさおはお腹が悶えて出入りは困難だね。

夏島は明治時代に陸軍が買収し、伊藤博文の別荘が建てられたり、大日本帝国憲法の草稿が作られた所です。大正時代には埋立てられ、今のように陸続きの地形になりました。

④もともとは貝塚として有名だったようで未だに多くの貝が山頂に散らばっております。

「夏島」という地名は、雪が降っても島には積もらないことに由来すると言われています。





⑤コンクリート遺跡

大正時代には、横須賀海軍航空隊の基地として使われ、滑走路もあり、大東亜戦争の時に地下壕や無線基地が作られたようです。

今では日産自動車追浜工場が隣にあり、かつての滑走路は試験車両のテストコースとなりました。

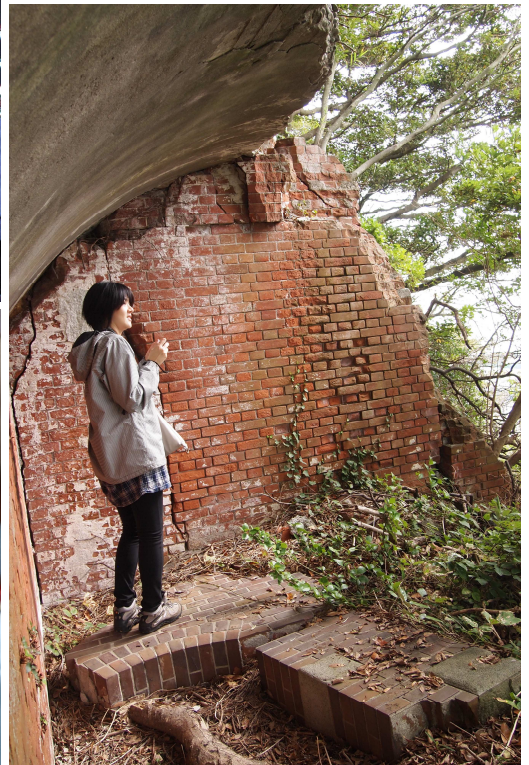
⑤このコンクリートの構造物は、地下のトーチカの空気抜きと明り採りだ。



実際にはこのスリットの上に屋根が掛けられ、雨水が入らないように工夫されていたとか。これは何でしょうと言うのは、相原さんの質問。これもグリコ隊長が正解。うさおは空気抜き、それもありませんがってことで不正解。最良してんじゃないの？



⑦榴弾砲台跡





⑦ここは榴弾砲砲台跡です。階段は観測所に上がるもので、前頁のグリコ隊長が居るのはその砲台跡、実は目の前は崖が崩落して断崖絶壁になっています。相変わらず、危険なところが好きなグリコ隊長です。危険なところはCaccoも負けていません。この階段下も本当に足場が悪く、うさおは滑り落ちたが、いいアングルなのでパチリ。

相原さんはここが貴重な貝塚であることを強調しておりましたが、紙面の都合で割愛させていただきます。戦争遺跡を見に来たんだものね。

⑧ここが煉瓦アンド安山岩の通路で、電燈所につながっている所。昔はもう少しと深かったようだ。

この通路に使われている煉瓦には、



⑧煉瓦通路



桜の花びらの刻印が打たれている。お分かりになるだろうか。

この先にあった電燈所は、崖が崩落したこともあって跡形もありません。Caccoが恐る恐る覗いているが見て取れるでしょう。

一説には終戦の際に、米軍が来てこれらの施設に爆薬を仕掛けて使えなくなったとの話もありますが、定かではありません。

海軍が使っていた飛行場は、近所の方の畑に換わり、食糧事情の良くないときに夏島は活躍したそうだ。日産の時代には、夏島の周りにバリケードが張られ、一般人は入れなくなったそうだ。





⑥また元の開けた処に戻ると、そこに地下壕があります。

ここは弾薬庫に使われていた所で、⑤で説明した通気口は半円形に繋がれた地下道の上に出ています。

って「通気口」じゃん、相原さん。鼻真だ！

平地に土塁を盛ったものかと思っておりましたが、どうやら開削で掘り、その後臼砲の設置を行ったようです。

まあ、入り口はこんな感じです。煉瓦アーチと安山岩の作りになっています。煉瓦フランス積だとか何だかで、口を挟みたがっているメンバーが沢山いました。「そうそう」なんて相槌を打ちながら、それは何ですかって聞いてくる人が居ないか、目で探していましたっけ。

中はこんな感じで、猿島や富津の弾薬庫とほぼ同じくらいの大きさです。

Cacco が見上げている所が、例の明かり採りの部分。こんな感じです、下の棒は弾丸を運び込むためのもの。





⑨これがうさおが見てみたかった監視塔と呼ばれている鉄塔。電波塔かと思ったがどうやら違うらしい。夏島は海軍航空隊の滑走路を守るための要塞として作られたとのこと、当時しての最新兵器、「電探」も備えていたのではと推理するうさお。

夏島の監視鉄塔頂部



以前、夷隅半島の K 君に案内してもらった大東岬にも、レーダー（電探）基地の施設跡がありました。

航空機早期警戒用レーダー 2 号 1 型電波探信儀などが終戦直前に開発され、特に 3 号 2 型は 60 台製造され日本各地に設置されました。

鉄塔の近くに、観測所付属室（主観測室）の地下壕があります。ほとんどは埋没していますが、内部は綺麗に残っています。

まあ、一時期、レーダーで人を殺すことは出来ないかと真剣に考えられていた時代があったようで、それなりに危険性も知られていたと思います。

なので、この鉄塔に電探がすえつけられ、傍に人も居たとは思われないので、目視での監視塔だったのでしょね。

そうすると、歩哨は恰好の標的でしょう。今だと高性能爆弾とか、ミサイルの一発で夏島が消えちゃいそう。

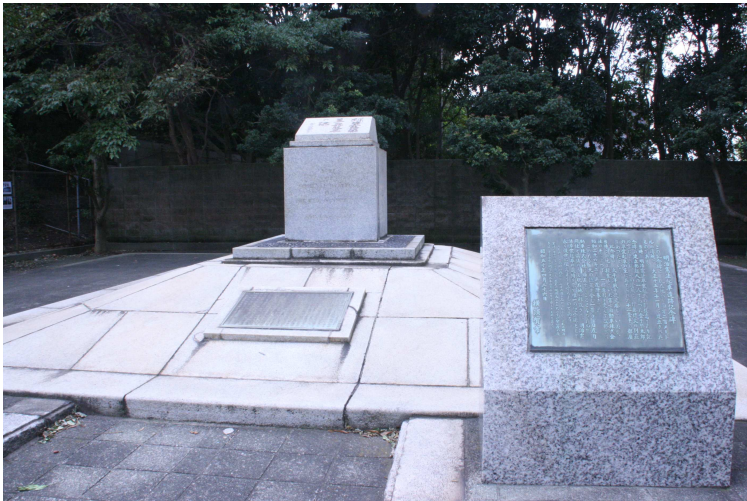


主観測室の内部（入口は埋もれている）



3 号 2 型電波探信儀





⑩このあたりは、探照灯があった処、何か基礎らしきものや、境界石があります。

境界石には、「海軍」の文字が刻まれています。



別の側面には、「測点」の文字があります。本来地表に出てこないところまで露わになっています。

土丹層の強固な地盤（トンネルが三層にも掘れる山ですからね）なので、不等沈下による石の浮き上がりは考えられません。後から建て直したか、あたりを掘ったかです。

この水の溜まった処に井戸があり、洗い場か風呂でもあったのでしょうか。

この山でキャンプみたいに暮らしてみるのも面白そうだけど、食糧や弾薬などの重いものは、手運びだったら辛いなあ。

明治憲法草案起草地の碑がこれです。明治18年に伊藤博文が初代内閣総理大臣となり、井上毅や伊東巳代治、金子堅太郎らが、夏島の伊藤の別荘で、明治天皇の勅命を受けて、大日本国憲法（夏島草案）をまとめました。それも、メンバーが横浜で書類カバンを盗まれたため、夏島に移って作業したんだって。この碑は大正15年に建立され、日産自動車の工場が出来た時にここに移設されました。